

(3) 学習指導案

MUD 学習プラン

2 年 2 組 社会科地理分野

目標行動

・東北地方の稲作を発展させるために、厳しい環境に立ち向かってきた人々の力強さを、伝統行事や品種改良をもとに説明できる。

●「2 伝統行事をはぐくんだ東北地方の農業」

(帝国書院 P. 238～239)

●平成 29 年 1 月 27 日 (金) 5 校時

●会場 2 年 2 組 教室

●授業者 岸谷 祐太郎

○予想される生徒のつまづき

ア) 自分の言葉で上手に説明できない。

イ) 農業の発展と祭りを結びつけられない。

< 手立て >

①ヒントカードを教室後方に準備する。

②机間指導中、個別の配慮で対応をする。

○基礎的・汎用的能力を育成するために

< 対話的な学び >

・相手に自分の言葉で伝えるよう促す。

< 主体的な学び >

・課題を的確に把握し、自ら追究するよう促す。

・郷土の伝統行事や産業への関心を高める。

学習活動(分)	発問・説明・指示	UD・指導の工夫
1 東北三代祭りの動画から、祭りの力強さを感じる (4 分)	「東北地方の代表的な祭りの映像を見せませう。祭りの目的は何か考えながら見てください。」	【視覚化】 ○祭りの臨場感 ICT を用いて伝える
2 TG をつかむ (1 分)	TG : 東北地方の農業の特色を説明しよう !	
3 東北地方は果樹栽培に適した地域だが、稲作も盛んであることに気づく。 ①果樹栽培と稲作のどちらが盛んか予想する ②予想の根拠を伝え合う (8 分)	「東北地方では、果樹栽培と稲作のどちらの生産額が多いと思いますか」 「東北地方の地形や気候等で、農業に関するものを復習 (扇状地、やませ (冷害)、減反政策) します。」 「なぜ、その立場を選んだのか、自分なりの根拠を伝え合ってみましょう」	【視覚化】 ○フラッシュカードや ICT、具体物等を用いて復習する ●予想に応じた場の構造化を行い、席を移動する < 対話的な学び > ・自分の言葉で考えを伝える < 主体的な学び > ・自分の担当するテーマを理解し、課題を追究する。
4 稲作が盛んな理由を追究する。 ①理由を追究する (個一班) (15 分)	【主発問】 「稲作に対する逆風を、どのようにして乗り越えてきたのだろうか」 「祭りには人々が逆境を乗り越え、生活をよりよくしたいという願いが込められています」	【焦点化】 ○稲作の工夫について、農業用水・耕地・品種改良・祭りの 4 つの視点を与える。
5 東北地方の銘柄米を試食する (8 分)	「東北地方の人々の思いと技術がつまった銘柄米の美味しさを味わってみましょう」	【視覚化】 ○実物の銘柄米を提示する
6 東北地方の農業の特色を説明する (10 分)	「今日のまとめです。東北地方のお米が美味しい理由を説明してみましょう」	【共有化】 < つまづき > : ア →ヒントカードを準備する
7 御船町の祭りと産業の関係に気づく (4 分)	「があーっば祭りには、どのような願いが込められているのでしょうか」	○実生活と結びつける